

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 90
2023.10

TOPICS

1

令和5年度9月「岡山大学学会賞等受賞者表彰 表彰状授与式」を開催



9月28日、「岡山大学学会賞等受賞者表彰 表彰状授与式」を行いました。

本表彰は、学会などが制定する賞を受賞した学生について、それを高く評価し、顕彰することを目的とするもので、今回は自薦・他薦の学生12人を表彰しました。菅誠治理事（教学担当）・上席副学長が、各受賞者に表彰状を手渡し「各学会での受賞は皆さんの日頃の勉学における不斷の努力の成果であり、深く敬意を表します。これからも学業に邁進されることを期待しています」と激励の言葉を述べました。

表彰状を授与された学生を代表して、自然科学研究科博士前期課程（電子情報システム工学専攻）2年の田主春月さんは、「LED可視光無線通信という次世代の通信方式についての研究で賞を受賞しました。研究を進める中で、さまざまな困難に直面しましたが、先生方のご指導や研究室の仲間の支えにより乗り越えられたことに感謝しています。今回の受賞を励みに、より一層、研究活動に邁進していくとともに、4月からは社会人として、本学で得た知識・技術をもとに、社会の発展に貢献したいと思います」と謝辞を述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12448.html



TOPICS

2

岡山大学職員の内定式を開催

本学は10月2日に、令和6年4月1日採用予定者の内定式を開催しました。事務職員等の内定者計20人が出席し、袖山禎之理事（財務・施設担当）・事務局長から一人ひとり内定通知書を受け取りました。その後、今年度すでに採用されている職員を含め、計32人で懇談を行い、袖山理事・事務局長と意見交換を行いました。参加した内定者は「岡山大学の一員であるという意識をしっかりと持って仕事に取り組みたい」、「さまざまな分野の仕事を経験し、大学職員として活躍していきたい」など、今後の抱負を述べました。懇談終了後は先輩職員と懇談し、同期の仲を深めるとともに、大学職員となる自覚を新たにしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12441.html



Pick up!

令和5年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行



本学は10月2日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生25人と大学院生139人が大学生活へのスタートを切りました。

式では那須保友学長が「SDGsを推進する研究大学で学ぶ学生として、革新的な発見、技術、応用を生み出し、世界に発信できるよう、仲間とともに多くの新しいことを学んでいただきたいと思います。そのためにも、岡山県の歴史や文化、豊かな自然を感じる機会を楽しんでください」と英語で式辞を述べました。

新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのMAY HSU MON CHOさんが「私たちは世界の様々な地域からここに集まり、それぞれが唯一無二の経歴を持ち、多様性を高めています。互いの違いや価値観を尊重し、互いの成長を支え合い、夢に向かって努力を続けることを誓います」と宣言しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12429.html



TOPICS

3

自転車マナー遵守を指導 岡大入口交差点付近

10月16日、国道53号線の岡大入口交差点付近で自転車マナーの遵守を呼びかける啓発活動を、岡山西警察署や岡山市、近隣学校の教職員、地域の交通安全団体などと協働して実施しました。本学からは教職員数人と学生14人が参加して自転車交通マナーの遵守を呼びかけました。

本活動は「自転車先進都市おかやま」を実現するための取り組みのひとつで、今年度は5月15日に続いて2回目の実施となります。

午前8時からの活動で、自転車の安全利用を訴えるチラシを配布。交通ルールを遵守し、イヤホン着用や傘差し運転、信号無視をしないよう指導しました。また、ヘルメット着用が努力義務になった旨を周知するとともに、ヘルメット着用を呼びかけました。

特に国道53号線の清心町交差点から岡大入口交差点付近は交通ルールの取り締まり要望が多い地域で、本学では2013年5月から岡大入口交差点付近に警備員を配置し、交通安全指導を行っています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12467.html



TOPICS

4

共育共創コモンズ(OUX:オークス)が内閣総理大臣賞を受賞



本学の津島キャンパスに令和5年1月に完成した共育共創コモンズ(愛称: OUX オークス)が、木材利用推進中央協議会主催の「令和5年度木材利用優良施設等コンクール」において、内閣総理大臣賞を受賞しました。

「木材利用優良施設等コンクール」は、木材を活用した施設について、木質資源の持続的かつ有効な活用のあり方、建築物の木造化・木質化のための工夫、木材利用による地球温暖化対策等への貢献等を総合的に審査し、優れた施設および年間を通じて国産材を大量に使用した事業体等を顕彰することにより、木材利用の一層の推進を図ることを目的としたコンクールです。共育共創コモンズは内閣総理大臣賞のほか、これまで下記の賞を受賞しています。

【受賞歴】

- ・日本空間デザイン賞 サステナブル空間賞2023 (2023.8)
- ・第57回日本サインデザイン賞 中国地区デザイン賞 (2023.9)
- ・2023年度グッドデザイン賞 グッドデザイン賞2023 (2023.10)

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12485.html

PRESS
RELEASE

イネをストレスから守る「ケイ素」の蓄積を担う輸送体を世界で初めて発見！ ～ケイ素を利用した作物の安定生産や安全性の向上に期待～

資源植物科学研究所の馬建鋒教授のグループは、自然生命科学研究支援センターの宮地孝明研究教授のグループと共同で、イネのケイ素蓄積を担う輸送体の分子機構を明らかにしました。

ケイ素は植物の有用元素として知られ、さまざまなストレスを軽減することによって、植物の健全な生育に貢献するミネラルです。ケイ素による有益な効果を受けるには、葉や茎にケイ素を蓄積させることが大事であるとされていましたが、これまでこの蓄積に関する分子メカニズムは分かっていませんでした。本研究では、未知であったケイ素の蓄積を担う輸送体を新たに同定し、その機能を証明しました。本研究成果により得られた知見は、ケイ素を利用した作物の安定生産や安全性の向上に役立つことが期待されます。

馬教授は「これまでケイ素は土壌ミネラルの中で唯一過剰障害の出ない元素であるとされてきましたが、今回の発見により、この輸送体が存在するからであることが分かりました。10年以上を費やした本研究が今後の作物の生産性と安全性の向上に役立てば、光栄です」とコメントしています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1151.html

